

# 加古川グリーンシティ防災会20年の歩み

前回は防災会が設立されたところまでをお伝えしました。今回はどのような取り組みをしてきたのか管理組合の事業と合わせて代表的なものをお伝えします。

**1998年** 自主防災組織「**加古川グリーンシティ防災会**」を設立し、**1999年**にはハード事業（以下ハード）として「**第一期の防犯カメラの設置**」、ソフト事業（以下ソフト）では「**町内ふれあいもちつき大会**」「**普通救命講習会**」など防災活動をハードとソフトに分けることを決めた。この年、防災活動が大きく推進することに繋がるひとりの人物と出会う。加古川市主催の防災講演会で、阪神淡路大震災当時の尼崎市消防局長堂本嘉巳氏の一言「**どの地域にも色々な職種や特技を持った人がいる。その人達を防災活動に活かさなければ!**」と目から鱗のような言葉を拝聴し、加古川グリーンシティ防災会を全国に知らしめることになる「**町内チャンピオンマップ・特技登録制度**

（**現・ちからこ部**）」が誕生。同時に当時としては画期的な災害時要援護者対策「**ひと声掛けてください登録**」（**現・あったカード**）」も誕生する。



**2000年**元旦、「**長屋のようなマンションに!**」と神戸新聞に掲載され、当時コミュニティ強化が防災力向上に繋がることが伝えられていなかった中で先進の取り組みとして大反響をうける。この年は情報伝達をテーマに「**エレベーターホールのニューメディアシステム導入**」「**防災マップ製作**」「**あんしんカード・情報登録制度**」がスタート。

**2001年** 「**防災にはあいさつが重要**」と考え、「**あいさつ運動**」がスタート。「防災活動にあいさつを!」この取り組みは斬新な防災活動として全国から注目される。この年、長周期地震対策とランニングコスト軽減化で各棟の「**高置水槽の撤去**」を行う。

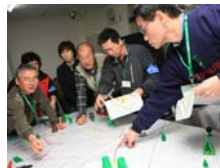
**2002年** 防災広報活動「**スポーツパブリックビューイング**」がスタート。防災キャッチフレーズ「**楽しく防災活動をやろう**」を掲げる。この年有料来客駐車場を整備し迷惑駐車撲滅作戦を展開し迷惑駐車が激減。マンション全域にLAN設備と専用サーバーを設置「**マンション運営情報及び緊急情報伝達システム・グリーンネット**」が設置され、居住者間の情報伝達が短時間で出来るようになる。



**2003年** 防災会の活動が認められ「**兵庫県優良自主防災組織・県知事表彰**」受賞。この年、テレビの空きチャンネルにニューメディアシステムが組み込まれ、各家庭でパソコンがなくても情報確認ができる「**24時間コミュニティ放送・グリーンチャンネル**」

がスタート。12月には、グリーンシティ町内会がグリーンシティ自治会へと名称変更。

**2004年** 防災訓練に「**災害図上訓練D I G**」の取り入れを決定。今までの「消防訓練=防災訓練」の形を破り、被災想定を盛り込んだ新しい訓練となる。この年、地震発生から時間をおって判断し、備える知識を身につける「**命のライセンス**」を開発し全戸配布。「命のライセンス」は全国の自主防災組織だけではなく、小中学校や企業にも防災活動マニュアルとして採用される。この制作には静岡県広報誌掲載「**命のパスポート**」が基になっている。



**2005年** 「**携帯電話防災情報発信サイト構築**」や災害図上訓練D I Gのオリジナル化で防災力が向上。9月「**NHK難問解決! ご近所の底力**」にお助けマンションとして出演。「町内チャンピオンマップ」等が紹介され、全国から「**マンション防災のパイオニア**」として注目される。この年の12月、管理組合を法人化し「**団地管理組合法人加古川グリーンシティ**」が誕生する。これにより「**管理組合・自治会・防災会**」と別々の組織だったものが「**ひとつの組織に統一**」され、情報伝達や行政対応がスムーズになり、全国的にも最先端のマンション運営の先駆けとなる。



**2006年** 各戸玄関ドアに自衛消防力アップとして「**役割分担シール**



（**通報班・初期消火班・避難誘導班**）」で各戸の防災意識向上を図る。3月「**第10回防災まちづくり大賞・総務大臣表彰**」受賞。4月「**防災1号井戸**」着工7月に完成しグリーンシティの備蓄力が飛躍的にアップ。9月「**平成18年度防災功労者・内閣総理大臣表彰**」受賞。12月「**炊き出しに大阪名物イカ焼き機**」を導入しユニークな防災活動として注目される。炊き出し機検討では、大型高速炊飯器とイカ焼き機を比較、500人前を炊き出す速度を計算「**ほぼ同じ時間で炊き出し可能!**しかし、高速炊飯器はその時点から配布を開始するがイカ焼き機は配布が終わっている」といった提供速度の速さ、関西特有の粉もん文化を見直し各家庭には小麦粉があり、毎分200リットルを湧出できる防災井戸により生活水には困らない。導入費用が安価なのでイカ焼き機2台（現在3台）導入。

各種イベントで炊き出し訓練を行い、今では**グリーンシティ名物**といっても過言ではない。多彩な事業の根幹には、**普段の生活の中に防災を組み込む「生活防災」**（**京都大学防災研究所・矢守克也教授**）の推進と「**楽しく防災活動をやろう!**」が原動力といえる。



今回は、防災活動の舵を大きく切ることになる災害「**東日本大震災**」から防災の概念をぶちこわせ!